

## 26. 当院における表在性膀胱腫瘍に対する THP 膀胱内注入療法の臨床的検討

山崎多佳子, 金水英俊, 安原克彦  
(熊谷総合)

初発・再発の表在性膀胱腫瘍15症例に対し, TUR-Bt 後の再発予防として, THP30mgの膀胱内注入療法を行った結果を検討した。治療中に4例が膀胱鏡で再発症例が認められ治療を中断した。

治療スケジュールはTUR 後一週間めより, 1回/週×6回, 続けて維持療法として1回/月を術後より2年間継続とした。

1年非再発率は73.3%, 2年非再発率は60%であった。治療を中断するような副作用はみられなかった。

更に奏効率を上げるべく, 治療レジメのスケジュール検討及び, 無効症例に対しての検討が必要と思われた。

## 27. 女子腹圧性尿失禁に対する TVT スリング手術の経験

池田良一, 坂本信一, 金子朋功  
中村 剛, 日景高志  
(厚生年金)

対象は当院にてTVT スリング手術を施行した3例で, 観察期間は平均7.3ヶ月であった。年齢は49~79歳, 尿失禁のtypeはⅡが2例, Ⅲが1例であった。手術は全例局所麻酔と静脈麻酔の併用で行い, 手術時間は平均40分であった。自覚症状は全例完全消失し, 満足度も高かった。Pad testは術前93~290g, 術後は0~3gと著明に改善した。TVT スリング手術は腹圧性尿失禁に対する有効な手術法と思われた。短期成績は良好であり, 低侵襲で, 合併症は少なかった。

## 28. Tethered Cord Syndrome の1例

鈴木孝一 (沼津市立)

近年MRI等の画像診断法の進歩により, 低位脊髄円錐の診断が容易になってきている。症例は36歳女性神経学的所見では明らかな異常は認められなかったが, KUBでは第五腰椎に二分脊椎が認められた。MRIは仙髄レベルにおいて仙髄の拡張した嚢状の膜を認め, Cystometryでは, autonomous typeでDSDは不明であった。残尿は70-280mlと多く, 現在自己導尿を行っている。

## 29. 前立腺粘液癌の1例

細井郁芳, 南出雅弘, 柳 重行  
(千葉労災)

前立腺癌はそのほとんどが腺癌であり, 粘液癌は極めて稀で本邦でも38例の報告しかない。症例は75歳男性。前立腺腫瘍マーカー高値のため当科受診し, 生検にて前立腺癌と診断された。約2ヶ月の内分泌療法の後前立腺全摘術施行。病理組織の結果から前立腺粘液癌と診断された。予後良好にて前立腺腫瘍マーカーは正常化し, 以後再発なく経過している。

## 30. 無作為系統的8箇所前立腺生検法の成績

石原正治 (千大)

1996年6月以降当科では無作為系統的8箇所前立腺生検法を施行している。1996年6月から2000年6月までの本生検法を施行した222例について集計した。平均年齢は70.2歳 PSAの中央値9.7ng/ml, PSADの中央値0.28ng/ml/ccであり, 検出率は38.3%であった。合併症は尿閉6.75%, 血尿3.2%, 発熱2.7%, 排尿困難0.9%, 直腸出血0.45%であり, 本生検法が検出率や合併症の点で問題のないことが確認された。今後治療方針選択や予後予測に有用な情報が得られるか生検組織所見と, いろいろな予後因子との関連性について検討をすすめている。

## 31. 内分泌再燃前立腺癌に対するデキサメサゾン療法

赤倉功一郎 (千大)

内分泌療法後の再燃前立腺癌に対するデキサメサゾンの有効性と機序を検討した。対象はPSA再燃を認めた前立腺癌16例で, デキサメサゾン治療を行なった。6例(37.5%)で50%以上のPSAの減少をみた。有効4例中3例で血中IL-6の80%以上の減少を認めたのに対し, 無効7例中IL-6の抑制をみた例はなかった。再燃前立腺癌に対するデキサメサゾンの有効性が示唆され, その機序として血中IL-6の抑制の関与が考えられた。

## 32. 転移性前立腺癌における予後因子としての肝転移・肺転移の意義

中町 裕, 鈴木啓悦, 赤倉功一郎  
小宮 顕, 市川智彦, 五十嵐辰男  
伊藤晴夫 (千大)

【目的】転移性前立腺癌においては, EOD gradeに代表されるように骨転移の有無と広がり予後へ大きな影響を与える。今回われわれは肝転移・肺転移の予